

## 鳥海山山スキー報告・鳥海山山行の思い出

【山城】鳥海山

【日程と天気】2018年4月28日

【メンバー】千葉組：菊池・吉川・会員外1名（チーム福島の計画に合流 計21名）

【行程】

千葉発 27日 19時—寒河江SA仮眠—鳥海ブルーライン（大平と鉾立の間）駐車—御浜神社稜線—鳥海湖—稜線—往路を滑走—駐車スペース



・GWが始まりました。4/28はチーム福島の計画に合流し、鳥海山ブルーラインから鳥海湖までのツアーに行ってきました。大平と鉾立の間からスタートです。既に多くの車が駐車、辛うじて道路上に駐車できました。いよいよスタートです。下部の残雪は少ないようですが、例年並みの残雪量とのことです。鳥海山山スキーは5回目くらいです。GWは2回目で16年ぶりくらいです。21名の大部隊、隊列組んでハイクアップ、絶好のツアー日和



に寝不足なぞなんのその、テンションがアップします。



振り返ると、広大な大斜面の向こうに日本海が見えるようで、霞が掛かって分かりません。滑走が期待できる素晴らしい斜面ですね!!! 前方に美味しそうな大斜面が見えてきます。登行ルートの上側の台地の下は急でクラックが少し入っています。



鳥海山の山頂が見えてきました。大所帯の休憩です。今回はチーム福島 10 名、東京から都職関連 8 名と千葉組の 3 名の計 21 名です。

・鳥海湖を見下ろす、御浜神社近くまで来ました。山頂の大迫力に感激です。鳥海湖を見下ろしながら休憩し、ボトムまで標高差 100m 余りの快適ザラメ滑走を楽しみました。

極上ザラメの広大な滑りやすい中・急斜面に各自思い思いのシュプールを描き、稜線



までの登り返しも苦になりません。2本も頑張った若者もいました。



・さあ、記念撮影の後、お楽しみの駐車場までの標高差約 600mの大滑走が始まります。

良く走る極上ザラメに皆さん大満足で飛ばしていきます。滑走が終盤に近づいて行き、登りで見えていた右手に小さなクラックの入った短い急斜面の上の台地に先行者が飛ばして滑走していきました。私もアルペンスピードショートターンで続けました。台地から下への滑走は気を付けなければなりません。



クラックが入っているため急斜面方向は避け、直進する方が良く、後続メンバーに注意を促しました。

台地を下ったところで後続を待っていると、ちば組の〇〇さんが転倒し怪我をした模様です。駆けつけると右肘が痛く前腕がブラブラです。腕を動かすと痛いとのこと、肘関節が脱臼したか骨折か??三角巾を2枚使用し右上肢を固定してツボ足で駐車場まで行きました。その後、由利本荘の救急病院に受診、肘関節部分の骨折で手術を要することが分かり、その日のうちに千葉組は帰葉しました。本人の話と転倒場面を見ていた方の証言から、左手のストックを恐らくクラックのところに突いたようで抜けず転倒した際に受傷したようです。千葉へ帰ってから手術を受け現在療養中です。

山スキーは思いもよらないところに罅が潜んでいることがあり、それがきっかけで怪我をすることがあり、終始気を抜けません。

・今回の山スキールートは 15 年ほど前、ちば山に入会して間もない頃のGWに元会員の小倉夫妻等 7～8名のちば山山スキー仲間と 1 日目に月山、2 日目に祓川から七高山



3 日目に今回とほぼ同じルートで滑走しました。湯の台からの山スキールートも 3～4 回経験済みです。このように鳥海山山スキーは頻回に経験していましたが、今回 2 日目に予定していた千蛇谷の滑走は、千葉組は実施できませんでした。一昨年(2015)の 7 月に日帰りで小倉夫妻等と夏の鳥海山を始めて経験しましたが

(2016 年 7/16 の山行報告を参考)、その時は鉾立から千蛇谷を経由して山頂まで到着し、外輪山の行者岳・伏排岳・文珠岳経由でお花畑を満喫した思い出が蘇ります。鳥海山の山スキー期間は長い。2013 年には 6 月 29 日に開通した滝の小屋手前の駐車場に駐車し、行者岳稜線下(標高差 170m)では一面のお花畑を愛で、標高差 700m の滑走を堪能できた。この時に千蛇谷を覗き込み、一度は千蛇谷を滑走してみたいと夢を馳せました。



鳥海山初体験は深田久弥の百名山踏破に没頭していた 1997 年 5 月、今から 21 年前に湯の台ルートです。新津(現在は新潟市秋葉区)在住の N 氏に連れて行っていただき、外輪山から登頂を目指しましたが、頂上の手前でガスのホワイトアウト、I 氏に無理を言って最高峰の新山に登頂させていただいた時です。強烈なハイマツの藪漕ぎ、不安定な天気で滑走時も危うく上部から降りてくるガスに覆われる直前にハイマツ帯を通過でき事なきを得たことを鮮烈に覚えています。その後も N 氏に数回同行願い湯の台ルートに通いました。山スキーで 5 回目、夏山 1 回訪れましたが、これほど大スケールの山スキーエリア・お花畑は本邦では見当たりません。遠路ではありますが、今後もトレーニングを続け出来る限り鳥海山詣でを続けたいと思います。